

新庄のアジア連携活動第1弾 AMDA代表ら田植え



ヒメノモチの苗を植える菅波代表(右から2人目)ら(新庄村のアムダ野土路農場で)

国際医療NGO「AMD A(アムダ)」や岡山商科大と連携し、有機農業を主体にアジアの国々などと交流する「アジア有機農業プラットフォームフォーラム(連携活動)推進条例」を制定した新庄村で29日、アムダの菅波代表や日本有機農業学会会長でもある岸田芳朗・同大教授、学生ら計約10人が、同プラットフォーム構想の活動第1弾として、村特産のもち米・ヒメノモチなどの田植えを行った。

菅波代表が同村に個人で購入した農地「アムダ野土路農場」1畝のうち、60

を使用。台風の影響で横殴りの雨が降っていたが、参加者はカッパを着て手作業と機械でヒメノモチとコシヒカリの苗を植えた。村民らでつくる同構想推進協議会の稲田泰男会長らが有機栽培で育て、9月中旬に刈りをする。

収穫したコメは売って現金に換える予定で、菅波代表は「ベトナムなどに拠点を作る資金の一部にした」と話していた。

残った40畝には6月中旬、トウモロコシや大豆の種をまくことにしている。